

## 平成30年度日本血液事業学会事業報告

### ◎会員数 平成30年4月1日現在

A会員	6,662名
B会員	46名
合 計	6,708名

### ◎学会機関誌「血液事業」の発行

第41巻第1号	2018年 5月	6,940部
第41巻第2号	2018年 8月	7,200部 (抄録集)
第41巻第3号	2018年11月	6,950部
第41巻第4号	2019年 2月	6,950部
合 計		28,040部

### ◎第42回日本血液事業学会総会概要

総会事務局 日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター

第42回日本血液事業学会総会(総会長:日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター中島 一格所長)は、平成30年10月2日(火)から10月4日(木)までの3日間に亘り、千葉市の幕張メッセ国際会議場を会場として開催しました。

我が国の社会や医学・医療がめまぐるしく変化していく中で、血液事業も変革を迫られています。全国的に取り組まれている改善活動の成果を受け継ぎ、様々な課題に挑戦していくために有用な研究成果や情報を共有する場を提供することが本総会の役割であると考え、テーマを「持続と変革—カイゼンの先への挑戦—」と致しました。

教育講演、シンポジウム、ランチョンセミナー、ティータイムセミナーにおいては、海外演者を7名迎え、国内では製造されていない血液製剤の情報や新たな細菌検査の試み、また骨髄バンクや血液事業の国際協力についても普段聞くことの少ない講演により、知見を共有し視野を広げる機会を提供することができたと思います。

また、関東甲信越ブロック内血液センターの献血受入や推進活動等における事例として、山梨県赤十字血液センターの受付検診車や、栃木県赤十字血液センターが献血会場および献血セミナーにおいて活用している人型ロボットPepper、関東甲信越ブロック血液センターが実施した高校生による黒板アートの紹介や、血液事業と本総会テーマを高校生が表現したポスター画39作品を展示することにより、献血推進を多方向の視点から見つめる機会となりました。

将来を担う若い音楽家達の活躍の場として、フルート、バイオリン、ヴィオラ、チェロの新進気鋭の奏者による室内楽ミニコンサートを開催するとともに、会員交見会の前にもプレコンサートとして演奏を行い、好評を得ました。

プログラムの概要は次のとおりです。

総会長講演として「血液事業の持続と変革」演者:中島 一格(第42回日本血液事業学会総会長、日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター所長)を開催しました。

特別講演は2題、特別講演1「CAR-T細胞療法—新しいがん治療の夜明け—」演者:小澤 敬也(自治医科大学名誉教授、客員教授)、特別講演2「AIの進歩—AIは医療を変えるか?—」演者:松尾 豊(東京大学大学院工学系研究科)を開催しました。

教育講演は7題、教育講演1「HLA適合血小板の輸血効果について」演者：藤井 伸治(岡山大学病院血液腫瘍内科・輸血部)、教育講演2「健康的な業務パフォーマンスを発揮するために—アンガーマネジメントの視点から学ぶ—」演者：阿井 優子(一般社団法人日本アンガーマネジメント協会)、教育講演3「血液型の歴史—血液型の発見と意義—」演者：内川 誠(日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター)、教育講演4「血液事業運営の変革に向けて」演者：中西 英夫(日本赤十字社血液事業本部)、教育講演5「Freeze-Dried Plasma and Cold Stored Platelets: Old and New Approaches for Hemostasis(凍結乾燥血漿と低温保存血小板：止血の最新動向について)」演者：Susanne Marschner, Ph. D.(Terumo BCT Inc.)、教育講演6「Improvement of Bacterial Testing with Delayed Sampling and Increased Volume: A Canadian Experience(カナダにおける細菌検査の向上の検討：サンプリングの時間および容量増による向上)」演者：Dr. Sandra Ramirez-Arcos(Canadian Blood Services)、教育講演7「品質リスクマネジメント」演者：村山 浩一(株式会社イーコンプライアンス)を開催しました。

シンポジウムは7題、シンポジウム1「医療制度の変革と医療技術の進歩に血液事業はどのように向き合うか」、シンポジウム2「献血者と患者をつなぐ“キズナ”」、シンポジウム3「血液事業の未来を拓く新規事業と研究開発」、シンポジウム4「供給体制の変革—医療機関との連携—」、シンポジウム5「血液事業の国際協力—総括と展望—」、シンポジウム6「血小板輸血の安全確保対策」、シンポジウム7「血液事業のBCP—今、首都直下地震が発生したら！—」を開催しました。

ワークショップは5題、ワークショップ1「採血部門の人材育成—求められる役割と課題—」、ワークショップ2「血液型検査の進歩と課題」、ワークショップ3「ドナーケア—より安全な献血に向けて—」、ワークショップ4「次世代につなぐ献血推進」、ワークショップ5「製造部門における現状と課題、将来展望」を開催しました。

特別企画1「人道と血液事業—近衛社長からのメッセージ—」では、近衛忠輝社長からのメッセージを代読し、8年間にわたり会長職を務められた国際赤十字・赤新月社連盟における活動を振り返りました。特別企画2「改善活動本部長賞候補演題」では、一次選考を通過した8事例の口演発表と最終審査が行われました。特別企画3「ブロック血液センター所長推薦優秀演題」では、日本赤十字社各ブロック血液センター所長から推薦のあった7題が発表され、7名の演者は総会長兼日本赤十字社血液センター連盟会長から表彰されました。特別企画4「土地の魅力を味わう—山梨のワインの魅力—」では、山梨におけるワインの歴史と文化、和食と共に山梨のワインが世界から注目されている意味や可能性について語っていただきました。

ランチョンセミナーは9題、ランチョンセミナー1「病院におけるアフエレーシスナースの役割—造血幹細胞移植を中心に—」、ランチョンセミナー2「我が国の肝炎ウイルス感染 最新の話題」、ランチョンセミナー3「Building A Public Cord Blood Bank, Bone Marrow Donor Registry and Implementing NGS Solution - A Case Study(公共の臍帯血バンクの設立、骨髄ドナー登録とNGSソリューションの適用事例)」、ランチョンセミナー4「HBワクチンに関する最新の話題」、ランチョンセミナー5「糖尿病性腎症の診断と治療戦略—保存期から透析期まで—」、ランチョンセミナー6「HIV感染早期発見をめざした検査アルゴリズムの進展」、ランチョンセミナー7「Tackling Transfusion Transmitted Hepatitis: a focus on HBV and HEV(輸血感染への取り組み—B型肝炎、E型肝炎)」、ランチョンセミナー8「洗浄血小板製剤の使用および副反応低減効果に関する検討」、ランチョンセミナー9「リンパ系腫瘍と免疫グロブリン」を設けました。

ティータイムセミナーは3題、ティータイムセミナー1「Clinical Effectiveness on Transfusion of Platelets with PAS(PAS置換血小板の輸血効果について)」、ティータイムセミナー2「新興・再興感染症のアジアの現状について」、ティータイムセミナー3「臍帯血移植の発展」を設けました。

演題は303題(口演125題、ポスター 178題)が発表され、各会場で熱心な討論が展開されました。また、企業展示は53社が出展されました。

期間中、総会には1,090名(事前登録928名、当日受付162名)、第2日目に幕張メッセ国際会議場コンベンションホールにおいて開催した会員交見会には697名と、全国から多数の方々が参加されました。

また、関連行事といたしまして、開会前日に日本血液事業学会編集委員会、同学会役員会、同学会評議員会および日本赤十字社血液センター連盟作業部会を、第1日目に同連盟役員会を開催しました。